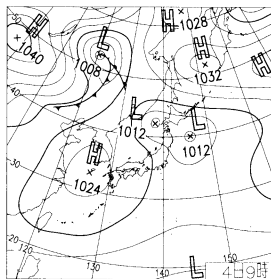


# 日々の天気図

— No. 34

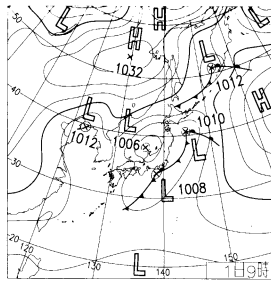
2004年11月

- 11日、日本海の低気圧に向かって暖気が入り、太平洋側で大雨。高知市は11月の日雨量記録を更新。
- 16日、冬型の気圧配置で北海道は大荒れ、層雲峡で29 cmの積雪。
- 26～27日、低気圧が急速に発達し、北陸や北日本は暴風・大しけ。(気象庁予報部予報課)



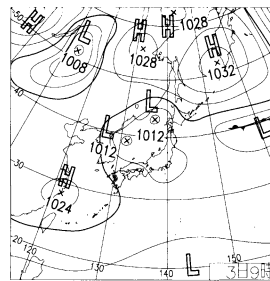
## 1日(月)兼六園で雪つり作業

日本付近は広く低圧部となり、中国・四国以西で晴れている他は曇りや雨。暖気の流入で近畿以北は気温が上昇。最低気温は平年より5～8℃高い。9月下旬～10月上旬並。



## 2日(火)関東濃霧

低気圧の影響で北日本は雨。その他は概ね晴れるが、北東気流が入った東北・関東の太平洋沿岸部では霧や霧雨。東京では朝の内、視程500 mの濃霧で交通機関に乱れ。

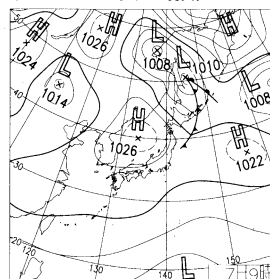
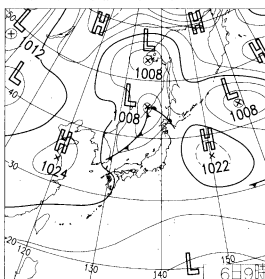
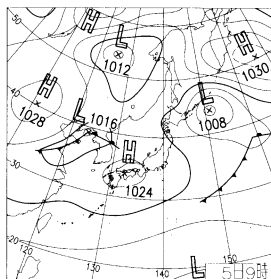


## 3日(水)島根県降ひょう

日本海の低気圧により、北日本や日本海側では雨や曇り。その他は概ね晴れ。北陸・山陰は上空の寒気の影響で、所々で雷雨。島根県隠岐で直径10 mmのひょうを観測。

## 4日(木)新潟県中越震度5強

動きの遅い低気圧により、北陸・北日本は曇りや雨。その他は高気圧に覆われて晴れ。気温は関東以北で平年より高し、北陸・東海以西では平年並か低い。



## 5日(金)ほぼ全国的に晴れ

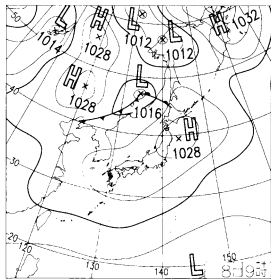
北海道のオホーツク海側は東海上の低気圧の影響で曇りや雨。その他は移動性高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れ。最高気温は北日本～東日本で平年より2～4℃高い。

## 6日(土)寒冷前線南下

前線を伴った日本海の低気圧の接近により北日本は曇りや雨。前線通過時に雷を伴う。その他は晴れ。低気圧に向かう南風により、最高気温は近畿以北で平年より2～6℃高い。

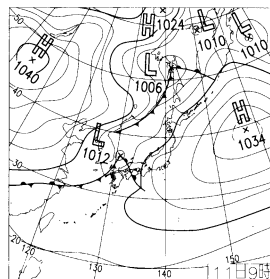
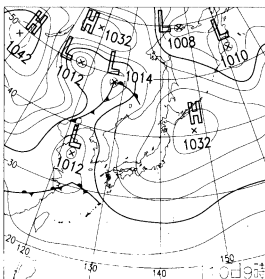
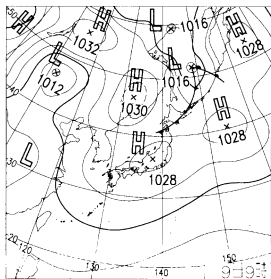
## 7日(日)全国的に穏やかな日和

北海道北部は寒気の影響で曇りや雨。その他は移動性高気圧に覆われ晴れ。朝の気温は全般に平年より2～5℃高く、釧路では9月下旬並の9.6℃。



## 8日(月)新潟県中越震度5強

本州の東海上の高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ。日本海側は南風によるフェーン現象も加わり、最高気温は平年より3～6℃高い。関東や伊豆諸島は東風の影響で曇りや雨。



## 9日(火)九州で夏日

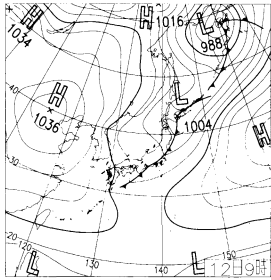
北日本では寒冷前線の通過に伴い一時雨となったが、日中は全国的に晴れて気温上昇。最高気温は平年より3～6℃高い。熊本市26.4℃等、九州は夏日。徳島でスイセンの開花。

## 10日(水)九州から雨

気圧の谷の接近により九州や四国は雨。その他は高気圧に覆われて晴れ。気温は全国的に平年より高く、最高気温は那覇市28.9℃。大阪市24.2℃など9月下旬～10月上旬並。

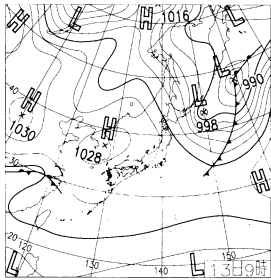
## 11日(木)静岡県で猛烈な雨

南からの暖湿気の流入で、東海以西の太平洋側の各地で非常に激しい雨。静岡県菊川町では98 mm/hの猛烈な雨。高知市の日雨量は224.5 mmで、11月の記録を更新。



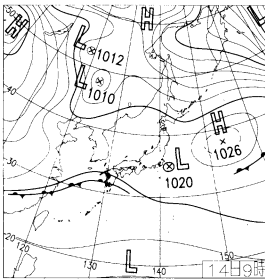
## 12日(金)東海～関東南部雷雨

北・東日本は低気圧や前線により雨。東海～関東南部は低気圧の通過時に所々で雷を伴う激しい雨。西日本や南西諸島は概ね晴れ。寒冷前線通過後は北日本を中心に北風強まる。



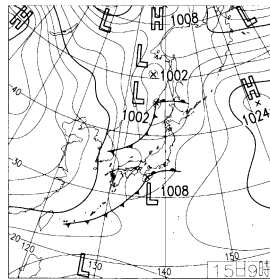
## 13日(土)東京木枯らし1号

北日本を中心に西高東低の冬型気圧配置。全国的に概ね晴れたが、日本海側では午前中まで弱い雨。東京では明け方から北西風が強まり、最大瞬間風速17.0 m/s。「木枯らし1号」。



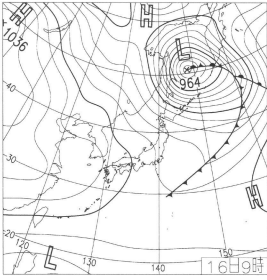
## 14日(日)浅間山中規模噴火

移動性高気圧は日本の東海上に進み、九州付近には西から気圧の谷が接近。北日本や南西諸島は晴れ。東・西日本は全般に曇るが、九州は次第に雨。浅間山が中規模の噴火。



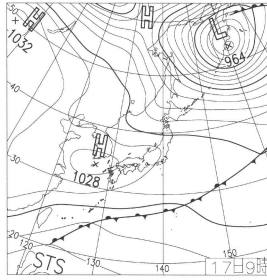
## 15日(月)台風第25号発生

西日本～南西諸島の一部で晴れた他は、前線を伴った北日本と本州南岸の低気圧により、ほぼ全国的に曇りや雨。稚内市で直径10 mmのひょう。1か月ぶりに台風(第25号)が発生。



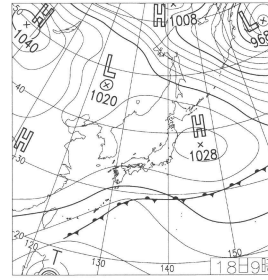
16日(火)北海道大荒れ

冬型の気圧配置。山陰から北の日本海側は雨や雪、その他は晴れ。オホーツク海で低気圧が急発達し、北海道は風雪が強まる。羽幌町で最大瞬間風速32.8 m/s、層雲峡で積雪29 cm。



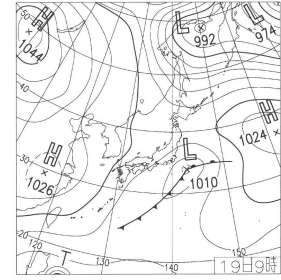
17日(水)冬型気圧配置緩む

大陸から移動性高気圧が東進し、冬型気圧配置が緩む。北陸から北の日本海側は寒気の影響が残り雨や雪。南西諸島は前線の影響で曇りや雨。長野市で平年より22日遅い初霜。



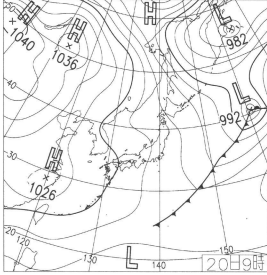
18日(木)西から天気崩れる

南西諸島付近の前線上に低気圧が発生し、本州の南海上を東進。北海道で晴れた他は曇りや雨。未明に九州を覆い始めた雨域は、夕方には北陸・東北地方まで広がる。



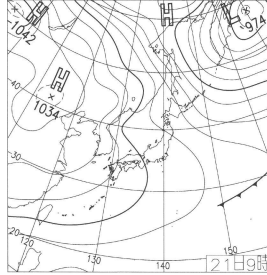
19日(金)近畿～東北冷たい雨

近畿～東北は関東沖を東進する低気圧の影響で雨。最高気温は平年を下回り、冷たい雨。九州・北海道は晴れ、その他は曇り。札幌の最高気温は平年より5.5℃高い12.6℃。



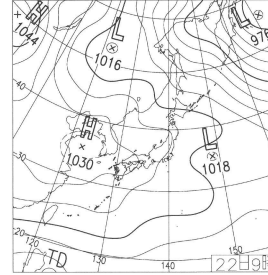
20日(土)ほぼ全国的に晴天

緩やかな冬型気圧配置。日本海側の一部で曇りや雨の他は、ほぼ全国的に晴天。太平洋高気圧は上空で強く、台風第25号は西進。フィリピンを横断して南シナ海へ。



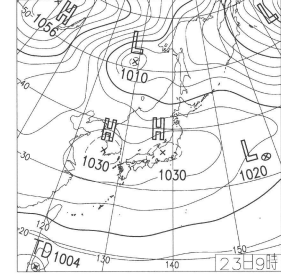
21日(日)北陸～関東大気不安定

緩やかな冬型の気圧配置が続き全国的に晴れ。北陸～関東は、上空の寒気により午後で大気の状態が不安定化し、所々で雷雨。千葉県船橋市で11.5 mm/h。



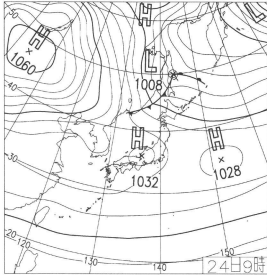
22日(月)男体山遅い初冠雪

大陸からの高気圧に覆われ全国的に晴れ。東日本は上空の寒気の影響で、明け方所々で雷雨。男体山では平年より24日遅い初冠雪。気温は西日本で平年並の他は平年より高い。



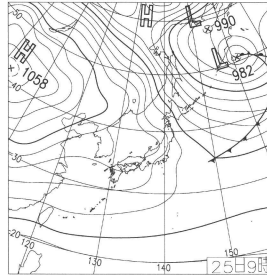
23日(火)北日本高温続く

移動性高気圧に覆われ、全国的に穏やかに晴れて行楽日和。最高気温は北日本を中心に平年より高く、北海道帯広市では平年より10℃高い15.7℃。



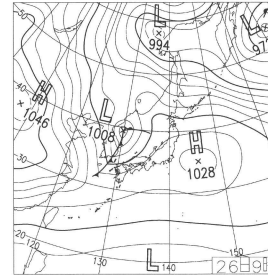
24日(水)北日本しぐれ

北日本は前線の通過に伴い、弱い雨が降ったり止んだりの天気。その他は概ね晴れ。北海道は風がやや強まり、紋別市で最大瞬間風速26.4 m/s。気温は全国的に平年より高い。



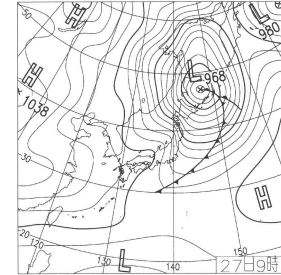
25日(木)北日本強い冬型

カムチャッカ半島で低気圧が発達し、大陸にはこの秋一番の勢力の高気圧。北日本中心に強い冬型気圧配置。北陸から北の日本海側で雨や雪。北海道旭川市で積雪11 cm。



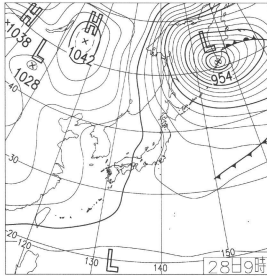
26日(金)日本海低気圧急発達

日本海の低気圧が急発達し、12時間に気圧を20 hPa 深める。夜には冬型気圧配置が強まる。寒冷前線通過後、日本海側で風が強く、金沢市で最大瞬間風速35.4 m/s。



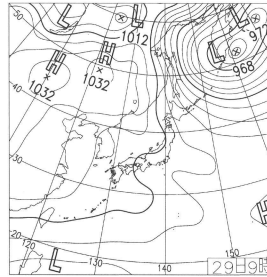
27日(土)北日本暴風と大しげ

低気圧がオホーツク海で猛烈に発達。北海道浦河町で最大瞬間風速41.1 m/s等、北日本は暴風と大しげ。北海道は雨のち雪、北陸以北の日本海側は雨のち曇り。その他は晴れ。



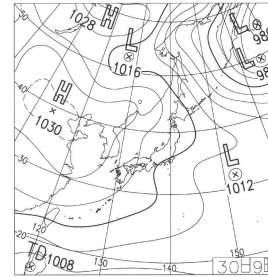
28日(日)各地で落葉進む

北日本は冬型気圧配置。北陸から北の日本海側で曇りや雨の他は晴れ。札幌市の最高気温は12月下旬並、久しぶりに平年を下回る。東京では落葉の「プル」が子供達に人気。



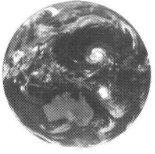
29日(月)台風第27号発生

北日本を中心に冬型の気圧配置が続く。札幌市は積雪17 cmで、除雪用の「ササラ電車」が初出動。青森県八戸市で平年より29日遅い初氷。カリフォルニアで台風第27号が発生。



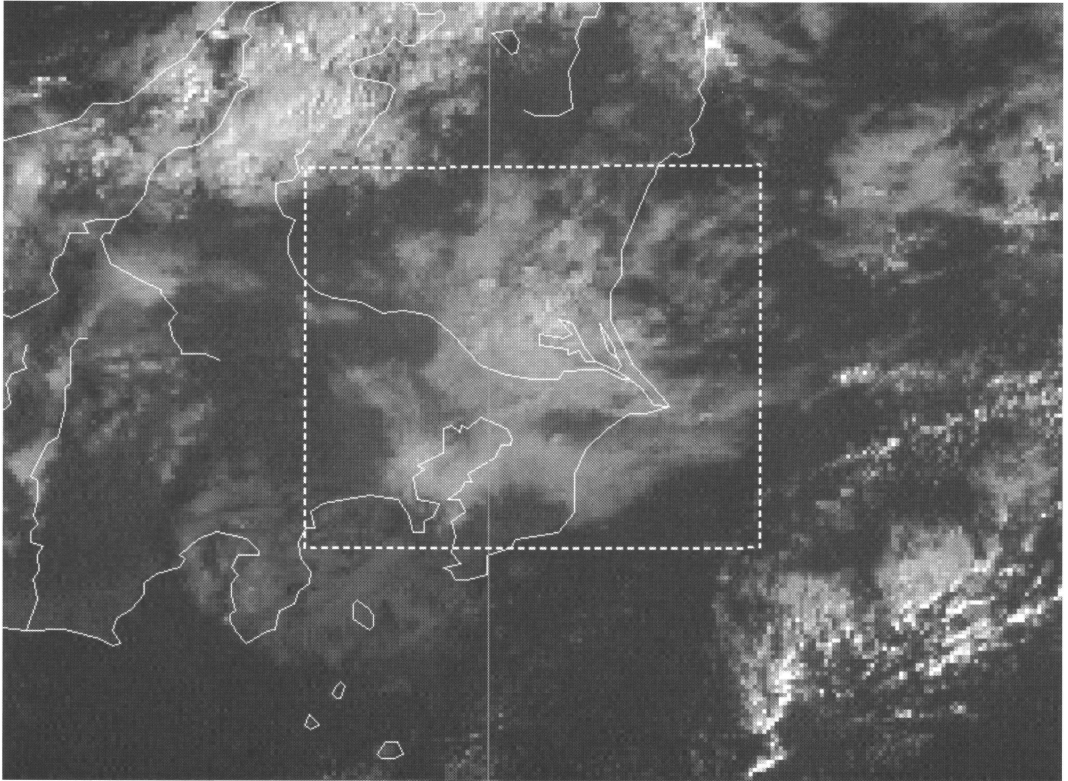
30日(火)全国的に高温の11月

冬型の気圧配置は緩むが、気圧の谷の通過で関東の山間部や北海道で雪。11月の平均気温は全国的に高く、東・北日本では東京など37の観測点で11月の月平均気温記録を更新。



## 今月の衛星画像—2004年11月

### 関東平野に発生した大規模な霧



2004年11月2日09時の可視画像

11月2日、関東地方では広範囲にわたって濃い霧が発生した。このため、千葉市や熊谷市などでは視程(見通し)が100 m 以下、東京大手町でも500 m となるなど、視界不良のため、電車運行見合せ、高速道路の通行止めなどが発生し、首都圏の交通機関に大きな影響を与えた。

霧は雲頂高度が低いため地表との輝度温度差が小さく、赤外画像では判別が困難な場合が多い。可視画像では灰～白色の雲頂表面が一樣で滑らかな領域として判別することができる。また、動きは一般に遅く形状の変化も穏やかである。

写真は11月2日午前9時の可視画像である。霧域は茨城県付近の一部を除き、関東平野から房総半島の東

海上にかけてみられる(破線の部分)。

今回のこの大規模な霧の発生要因としては、前日低気圧の通過に伴う降水によって空気が湿り、天気も急速に回復したため、2日の明け方、雲がなく風も弱い状況下において放射冷却による地表付近の気温降下が起こり、空気中の水蒸気が凝結して霧が発生したと考えられる。この広範囲に発生した濃霧も日中にかけての気温の上昇とともに解消した。

このように、降水を伴う低気圧通過後の晴天(雲が少なく風が弱い)の明け方、放射冷却により霧が発生することが多く、時には広範囲にわたることがある。

(気象衛星センター)